ひと　まち　輝く

kirari キラリ

箕面市立みのお市民活動センター
(指定管理者:(特活)市民活動フォーラムみのお)
〒562-0013　箕面市坊島4-5-20
みのおキューズモールWEST1-2F
TEL. 072-720-3386　FAX. 072-720-3387
http://www.shimink.jp/

Vol. 9

令和３年(２０２１年)１０月発行

トピック

豊かな学びを子どもたちの成長と未来へつなぐ

気軽に始めてみませんか?
互いに学び合い、聞き合い、元気になる「場」づくり

箕面こどもの森学園
スタッフ　佐野 純さん

豊かな学びを子どもたちの成長と未来へつなぐ

コロナ禍や相次ぐ自然災害により私たちの暮らしは急変。これまでの常識が非常識になり、ひとりひとりの命の重さを改めて感じるようになりました。生き方や働き方を見直し「自分らしく生きたい」と考える人も増えています。しかし、画一的な傾向にある日本の社会において実際に『自分らしく』『自然体』で生きるのはそう簡単でもありません。今回は、『自分らしさ』を尊重する教育方針で、子どもたちの豊かな学びを育んでいる、箕面こどもの森学園のスタッフである佐野純さんにお話をお聞きしました。

「箕面こどもの森学園（以下、こどもの森）」は「認定NPO法人コクレオの森」が運営するオルタナティブスクールで、子どもたちの自律的・主体的な学びを尊重した教育を行う学校です。そこで佐野さんは中学部を担当していますが、こどもの森ではいわゆる学校教育現場における教師というスタンスではないため“スタッフ”といい、子どもたちとフラットな関係性をもっています。

「自分がはじめたのではなく、うまく巻き込まれたんですが」

佐野さんは、こどもの森のスタッフになる前は学習塾で働いていたそうですが、元々教育への意識が高かったからというわけではなく、大学卒業後の進路を考えた時にピンとくるものがなくて、そのころ学習塾でアルバイトをしていた流れと集団指導もやってみたいという興味から何となく教育の方向へ進みました。けれど、いざやってみると思っていたものと違って、結局3年で退職。

「業界的には当たり前なんでしょうが、ビジネス的でどうしても子どもを数字的に見る面があり、それに馴染めませんでした。」と佐野さん。

その頃よくSNSで『不登校』や『フリースクール』など気になる言葉を検索していたところ、教育というものには自分が思っていたよりもっと広い意味、多様な学び方があると気づきました。さらにその気づきを深めていくなかで上越教育大学の西川純さんが提唱する『学び合い』（子どもたちは誰しも学ぶ力をもっていて、お互いに教え合い学び合うことでクラス全員が目標を達成できるようなクラスづくりの考え方）を知り感銘を受けました。また、SNSでつながった人が『学び合い』を導入した学習塾の運営者を探していたのでやってみることに。その塾の場所を使っていろいろな学びの場を開催するなど自分がしたいことに挑戦できましたが、経営的には厳しい状況だったそうです。けれど時間はあったので自分自身もいろいろな学びの場に参加していた中で、こどもの森のことを知りました。

その後、関西で多様な学びを広げるフォーラムの実行委員会に参加したところ、こどもの森のスタッフたちも参加していたことから関係が深まりました。さらにその後塾の経営が立ち行かず辞めてしまった頃にこどもの森で開催されていた『哲学キャンプ』に参加し、現校長のＭさんと話す機会があってそのことを伝えると、インターンのような形で週１回スタッフとして関わってみないかと誘われました。面白そうだと感じたので他でアルバイトをしながらスタッフをはじめました。そのころちょうど中学部を立ち上げる話が出て、声をかけてもらい中学部のスタッフをやってみることに。中学部の準備会は月一頻度でミーティングがあり忙しかったのですが、塾の講師をしていた頃の違和感が解け、面白さを感じました。そうして準備会参加から約１年後の中学部開設を機にアルバイトを辞め、こどもの森の常勤スタッフになりました。

かつての自分のような子どもたちに届けたい

中学高校は進学校に通っていたという佐野さん。この頃は友人関係に恵まれて毎日楽しく過ごしていたものの、内面的にはとてもしんどかったそうです。「成績は常に底辺で、生きる希望ももてなかった。自殺願望はなかったけど自分自身を大切に思う気持ちもなかった。世の中で誰かが事故とかで死ぬなら代わりに自分が死ねばいいとか思ってたんです。自己肯定感がとても低かったんだと思う。」と当時を振り返ります。

こどもの森はフランスのフレネ教育に沿っていて、多様性を尊重し、子どもたちの興味関心によって学びをつくっていて、ひとりひとりの学びを大切にしています。こういう場を心地よく感じていて、豊かな学びの重要性を自分自身の経験からも感じているそうです。

「もともと人と関わるのは好きです。コクレオの森の『コクレオ』は『ともにつくる』という意味。その意味のとおり、ともに豊かな学びをつくりひろげていきたいと考えています。自身の経験、かつての自分のように苦しんでいる子、他の選択肢もあるという発想に至らない子に届けたい。他の選択肢を知らないと、がんばり続けるか不登校かになってしまう。こどもの森は課題意識をもった市民たちがつくった学校というひとつのモデルケース。こういうのがいろいろなところに拡がりつながっていけばいいなと思います。」と柔らかな物腰ながらも熱く語る佐野さん。

多様性を尊重しあえる社会に向かい、豊かな学びを子どもたちの成長と未来へつなぐという目標をもって前進する佐野さんの益々の活躍に期待が膨らみます。

認定NPO法人 コクレオの森

コクレオの森　Information

認定NPO法人 コクレオの森

住所：大阪府箕面市小野原西6-15-31

連絡先：TEL 072-735-7676　　HP：https://cokreono-mori.com/

気軽に始めてみませんか？ 互いに学び合い、聞き合い、元気になる「場」づくり

読書会や映画上映会、多文化交流イベントなどを仲間と企画し、発信している末原真紀さん。そんな末原さんに、ご自身の原点や市民活動の魅力について伺いました。

高校生時代からの違和感が原点

女子高に通っていた頃から、男性教員と女子生徒の関係性や、通学時の痴漢など、女性を取り巻く社会のありようにモヤモヤを感じていました。大学でジェンダー論や国際関係学に出会い、知識としては差別やマイノリティのことも学びましたが、でもそれは、アカデミックな教科書の言葉でしかなくて。

20代は仕事と家の往復の毎日で、「どこかに居場所が欲しいな」と漠然と思っていました。豊中に帰って来てから地域で何かできないかと思っていたところ、「国際交流の会とよなか(TIFA)」と出会い、そこでスタッフとして地域の外国人市民と関わるようになりました。2017年からは「箕面市国際交流協会(MAFGA)」の職員として、外国人市民と共に地域づくりをする企画を担当しています。多様なバックグラウンドを持った人たちと日々話しあい、わかりあえないことがあっても、「それでもあなたと共に何かしたい」という思いで関わっています。

市民活動はエンパワメントの場

仕事として、個人として、様々な社会課題をテーマにしたドキュメンタリー映画の上映会やフェミニズムをテーマにした読書会を開いています。また、「性」をテーマにジェンダーの視点を大切にした作品を上映する映画祭にも関わっています。

市民活動にはその人が本来持っている力を引き出す（エンパワメント）、そんな効果があると思います。映画上映会や読書会は、その作品自体からたくさんの学びを得ますが、参加者同士がお互いの感じたことを言葉にして共有したり聞き合ったりすることでより一層深まります。主催している側ですが、世代、出身地や文化背景の違いのある参加者の方から、たくさんのことを教えてもらい、エンパワーされています。自分が参加したい場がないなと思ったら、友人や知り合いに「○○をやりたい」と話してみては。仲間や共感者が集まってきたり、「こんな活動グループがあるよ」と誰かが教えてくれるかも。簡単にできるんですよね。気軽に取り組んでみてほしいですね。

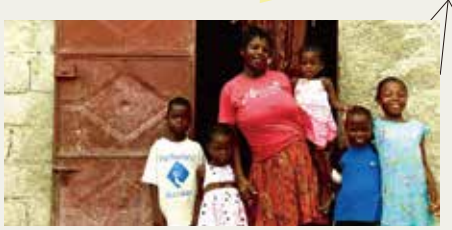
末原真紀さん　Information

大事な人たちとおいしいものを食べているのが一番幸せ。
休みの日は海外ドラマと映画三昧。

【公益財団法人箕面市国際交流協会】
箕面市小野原西5-2-36　箕面市立多文化交流センター内
TEL:　072-727-6912

みのお cinemo2021 上映会開催

9月4日、みのおcinemo2021上映会『ポバティー・インク～あなたの寄付の不都合な真実～』を開催しました（cinemoの詳細については次ページをご覧ください）。ハイチやアフリカを主な舞台に、“支援される側”の人たちの生の声を伝えるドキュメンタリー映画を観た後は、参加者どうしの感想共有の時間を持ちました。以下、参加者からいただいた感想の言葉を紹介します。



寄付をすると受け手は必ず喜ぶという思い込みを覆す映画だった。筆者は困っている人の役に立ちたいという考えに賛成だ。大学の専門分野や就職活動の際にはその考えを軸に行動しており、献血やヘアドネーションをした経験がある。特に献血ルームを出た後は満足すると同時に、自己肯定感が上がるのを感じる。そのため、作中の「寄付をする人は自分に酔っている」という言葉にヒヤリとした。もちろん、献血と国家間の援助行為では次元が異なるが、寄付をすること自体に満足している私も十分に「酔って」いたからだ。また、今回は寄付をする側の目線で感想を述べているが、誰しも受ける側になる可能性があることも覚えておきたい。

上映会は少人数だったのと、感想共有の時間が十分あって発言しやすい雰囲気だった。映画の内容に加えて、他の参加者の感想を聞いた後にも二重に考えを深める機会が用意されていたと感じる。（西岡夏希）

衝撃でした！　支援そのものに問題があるという事実。

映画を観るまでは、寄付を集める団体の問題を提起した映画だと思っていました。支援する先進国と、支援を受ける途上国側から発せられる声とのギャップに驚くばかりでした。

善意の行為は時に支援される側の経済や生活をも蝕んでしまい、自立の道を閉ざしてしまうことがある。考えてもみないことでした。

そしてそれは日常生活でもありうることだと気づかされました。よかれと思った行為にも負の側面があるかもしれないということに。

この映画に、たくさんの気づきをもらいました。物事のその先を意識するという視点も与えていただいたと思います。（S・M）

インフォメーション

＼新企画!／
テーマ型映画
「cinemo」上映会

社会課題・SDGsをテーマとする映画の上映会を、箕面の3団体が実行委員会を組んで開催します。「映画をよりよい未来のために!」をキーワードに世界中からセレクションされた映画を、ぜひこの機会にご覧ください。

cinemo（シネモ）は、社会の課題解決を目的に事業を展開するユナイテッドピープルが配給しています。今回、(特活)暮らしづくりネットワーク北芝、(公財)箕面市国際交流協会と(特活)市民活動フォーラムみのおが協働で実行委員会を構成。3団体の拠点を会場に、社会問題をテーマとした映画の上映会を年数回開催します。

みのお市民活動センター会場での開催（第２回）

「ELEMENTAL　生命の源 ～自然とともに～」
11/6（土） 18:30～20:30　映画上映と感想共有
※感染症拡大防止のため変更になる場合があります。

参加費：一般700円
みのお市民活動センター会場での上映会は、学生および(特活)市民活動フォーラムみのお会員は参加費無料！

Q&A クイズコーナー

今回掲載記事に関するクイズです。
今号で紹介した佐野純さんが所属する「認定NPO法人コクレオの森」に関しての出題。
答えは本文の中にあります。

【問題】
「コクレオ」の由来は次のうちどれでしょうか？
下記の選択肢からお答えください。

①英語のCO（共に）とエスペラント語のKREO（創造）の合成語で、「共に創る」を意味する

②ギリシア語で「美しい、素敵な、よくやった」を意味する

③インドネシア語のKOK（どうして）と英語のCURIOUS（好奇心の強い）の合成語で、「（自分と世界に対して）問い続ける心」を意味する

<答えと解説>
答え①。
②はお菓子のオレオの由来（諸説あり）。
③は出題者の創作。

市民活動フォーラムみのお

みのお市民活動センターを管理運営するNPO法人です。様々な課題に取り組む市民活動の応援をしています！

センターではこんなサービスを提供しています！

誰でも使える…**印刷機、コピー機、貸会議室等**
非営利公益市民活動団体が使える…年登録制：
事務ブース（貸事務所）、倉庫、ロッカー、メールボックス

団体のお困りごとに答えます！

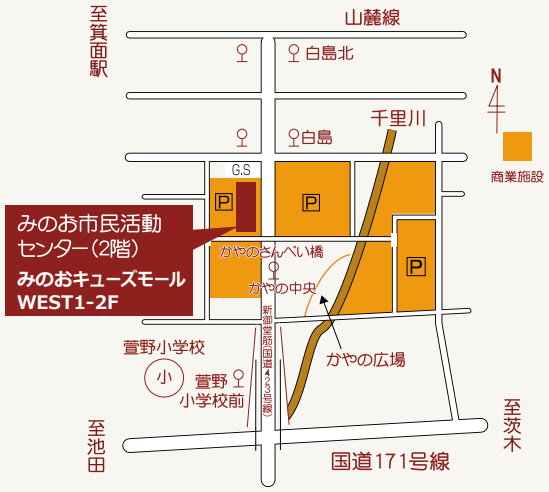
活動支援「夢の実支援金」…団体の立上げ、事業の拡充を資金面で応援します。
団体の運営課題の解決…事務力、広報力などのスキルアップ講座を開催しています。
その他ホームページ、SNSでさまざまな情報発信をしています。

社会課題に取り組んでいる活動をアピールしています！

市民活動の紹介や被災地復興支援のイベント、市民社会講座やフォーラムを開催しています。

何かしたい！役立てたい！という思いに答えます！

ボランティア情報サイト　v-info…ボランティア情報を発信しています。
NPO広報サポーター　promo…団体の取材を通してNPOの活動を体感できます。
NPO･市民活動を紹介する冊子の発行等情報提供しています。

当法人のネットワークで、いろいろな分野をつなげます！

市民活動と企業、店舗、学校などと連携することで、強みを活かした活動につながります。